

News Release

2025 年 6 月 3 日
ステラファーマ株式会社

米国臨床腫瘍学会(ASCO) 2025 年次総会に参加いたしました

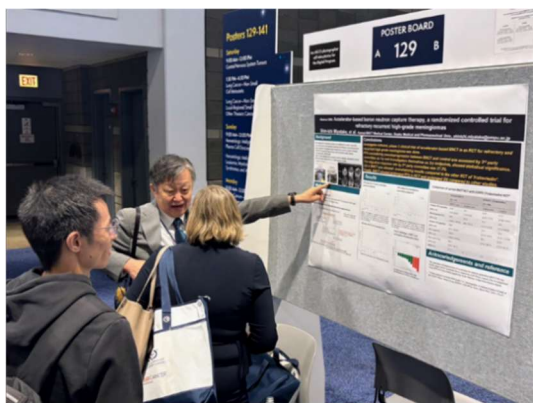
当社は、2025 年 5 月 30 日から 6 月 3 日まで米国イリノイ州シカゴにて開催された「米国臨床腫瘍学会 (American Society of Clinical Oncology: ASCO) 年次総会」に参加いたしました。

本総会において、5 月 31 日のポスターセッションでは学校法人大阪医科薬科大学の宮武伸一先生 (治験調整医師) より、医師主導治験として実施された再発高悪性度髄膜腫^{※1}を対象とする BNCT^{※2} (ホウ素中性子捕捉療法) の第 II 相ランダム化比較試験^{※3}に関する主要解析結果の概要が発表されました。

発表当日は、事前に公開された Abstract (発表要旨) への関心も高く、欧米・アジア各国の医師、がん研究機関、製薬企業の関係者が多数訪れ、活発な意見交換が行われました。なかには、「再発高悪性度髄膜腫は既存治療では予後が極めて厳しいが、本試験はランダム化比較試験として実施されており、無増悪生存期間 (PFS)^{※4}や奏効率において比較対照群に対し有意な成績を示したことに非常に驚かされた」との声も寄せられました。



ASCO は世界最大規模の腫瘍学会であり、毎年 4 万人以上が参加します。広大な会場では、展示ブース、ポスターセッション、患者支援団体の展示、複数の講演会場が設けられ、世界中の研究者・医療従事者が最新のがん治療に関する知見を共有し、活発なネットワーキングが行われています。



当社におきましても、宮武先生に随行し、世界中の研究者・医師・企業関係者との交流を通じて、BNCTに関する最新情報を共有するとともに、今後のさらなる国際連携の礎となる有意義な機会となりました。

今後とも当社は、がん治療の新たな可能性を追求し、より良い医療の実現に貢献してまいります。

以上



※1 髄膜腫

髄膜とは、脳と脊髄を保護している薄い組織層で、髄膜腫とはその内側の層の一つにできる脳腫瘍の一種です。髄膜腫は良性（WHO grade 1）であることが多い疾患ですが、悪性度が高い場合（WHO grade 2, 3）には、脳、脳血管、頭蓋骨などに深く浸潤し、再発を繰り返します。また、肺などの他臓器への転移を生じることもあります。再発した場合には、手術や放射線治療（X線外照射）が適用されますが、その治療効果には限界があり、有効な治療は確立されていません。

※2 BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）

ホウ素中性子捕捉療法とは放射線治療の一種であり、ホウ素を含む医薬品と放射線の一種である中性子照射を組み合わせ、体へのダメージが小さく、高い治療効果が期待される新しいがん治療法です。

※3 ランダム化比較試験

ランダム化比較試験とは対象者を無作為（ランダム）に2つ以上の群に分け、一方には従来の治療法を、もう一方には新規の治療法を行い、事後の健康状態を観察し、比較することで治療法などの効果を検証する試験です。

※4 無増悪生存期間

無増悪生存期間とはがん治療の効果を測る指標の一つで、治療開始からがんの進行や再発が確認されるまでの期間、又は患者が亡くなるまでの期間のことです。

ステラファーマ株式会社について

当社は、企業理念として『ひとりのかけがえのない命のために、ステラファーマは世界の医療に新たな光を照らします。』を掲げ、「ひとりのかけがえのない命のために」それぞれの使命を実行することを行動指針の基盤とし、「世界の医療に新しい光を照らす」ことを経営目標の策定方針としています。

当社はこの企業理念に基づき、がん患者に対する新たな治療の選択肢として BNCT を実用化するため、創業以来、BNCT ホウ素薬剤の研究及び開発に取り組んでいます。

詳細は当社ホームページをご参照ください。

<https://stella-pharma.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

ステラファーマ株式会社 総務部

(TEL) 06-4707-1516

(E-mail) <https://stella-pharma.co.jp/otioawase/#ir>